

香川大学工学部祭

代表者 木村昭博（工学研究科材料創造工学専攻 1 年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、香川大学工学部の学生が日頃行っている勉強や研究の成果を生かして、催し物を行うことで来場者に香川大学工学部をより深く知っていただく場を提供することを目的としています。概要は下記の通りです。香川大学工学部祭は香川大学工学部祭実行委員会によって運営されている。工学部祭は主催日を工学部オープンキャンパスに合わせて毎年開催されている。オープンキャンパスの前日を準備日、後日を清掃日とする。前日が天候不良の際には工学部祭当日に準備・運営を行う。また、当日悪天候により工学部祭を施行できない場合は、やむをえず、中止とする。開催時間は午前 10 時から午後 6 時を予定し、実施場所は工学部キャンパス内広場・各研究棟・講義室内とする。片付け・清掃については可能な限り工学部祭当日に行い、当日行うには困難な場合のみ後日行うものとする。

2. 実施スケジュール

平成 19 年 11 月 3 日 第 4 回香川大学工学部祭

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、香川大学工学部の学生が日頃行っている勉強や研究の成果を生かして、催し物を行うことで来場者に香川大学工学部をより深く知っていただく場を提供することを目的として行いました。



今までの工学部祭は「祭」の要素が本学の「香川大学祭」や医学部の「医学部祭」に比べて小さく、盛り上がりには欠けていました。これらの祭と工学部祭との違いは何かを考えると規模の問題もありますが、ステージの存在ではないかと考えました。ステージが有ると外から見て、「何かやっている」ということがわかるため近隣の方々に来場していただくために今年度はキャンパス内にステージを建て、「祭」らしさを強調した工学部祭を目指しました。

しかし、今までの工学部祭は室内で楽しんでいただく催し物だけで外ではほとんど催し物を行っておらず、唯一の外での企画“JAZZ コンサート”では夕方に行ったせいかほとんど人は残ってはいませんでした。今年度は、最後までお客様に工学部祭に参加していただこうと思い、毎年恒例のオ

リエンテーリングの抽選会を JAZZ コンサートの後に行いました。その結果、1000 名近くのお客様に
来場していただき、お昼に行った企画では笑いや歓声が飛び交っており、最後の JAZZ コンサートま
で 80 名近くのお客様に残っていただきました。

また、今年度は工学部開設 10 周年ということで講師にピーター・フランクルさんをお招きして、
「21 世紀に羽ばたくための学習法」と題して講演をしていただきました。ピーター・フランクルさん
にはただ話すだけでなくジャグリングやクイズを交えた講演会を
していただいたことで小中学生でも楽しむことができ、会場には
立ち見のお客様が見られるほどの大盛況でした。その他、毎年恒
例である「人気授業体験会」や「公開卒論発表会」では高校生に
とって香川大学工学部では実際にどのような授業・研究が行われ
ているかを知る絶好のチャンスになったと思われます。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業はオープンキャンパスの一環として行われ、高校生や近隣の方に多く訪れて
いただくことができました。工学部祭の企画である「人気授業体験会」では実際に先生方に 30 分程
度講義をしていただくことで模擬授業を体験でき、香川大学工学部を受験したいと思っている高校生
にとって有意義な時間であったのではないかと思います。また、「公開卒論発表会」では 4 年間学ん
だ知識を生かして学生に卒論発表会を行っていただき香川大学工学部ではどのような研究を行って



いるかを高校生だけでなくこれから研究室配属される 3 年生以下の学
生にとっても良いものであったと思います。このプロジェクト事業を
通して香川大学ではどのような授業・研究が行われているかを知る場
を提供することによって香川大学へのより理解が深まるとともに自
主的な表現の場を得た学生にとって自らの研究や学生生活を見つめ
直すきっかけにもなったと考えています。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

学内の事務の方々を始め、印刷会社など多くの方のご協力の下、今回のプロジェクトを開催するこ
とができました。この方々無しでは工学部祭を開催することは困難であったと思います。

このプロジェクト事業を通して工学部を運営することの難しさ、人と協力することの大切さを得る
ことができたと考えています。このような経験は通常の学生生活では得られない貴重な経験である
と思っています。このような経験を生かして今後の学生生活でも人と協力し研究等に取り組んで生きた
いとと考えています。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

毎年、工学部祭への来場者の数は増えてきており近隣の方々に認知され始めてきたのではないかと
思われます。まだまだ歴史の浅い祭ではありますが、5 年 10 年と工学部祭が続き歴史ある工学部祭に
していきたいと考えています。しかし、今年度の工学部祭は大学院生で構成されており世代交代をし
ていかなければ工学部祭を継続することは難しくなっております。うまく世代交代をしていき今年度

よりも来年度、来年度よりもその次とより良い工学部祭を開催し続けていくことが今後課題であるのではないかと考えています。最後になりますが、今回の学生支援プロジェクト事業は学生にとって様々な企画を提案、実行していくことで貴重な自己表現の場を得ることができたと思います。しかし、支援分担金の使用用途が限られているために様々な面で苦勞いたしました。今回ほとんどの支援分担金が物品という形では大学には残ってはいませんが、実行委員を始め工学部祭に参加した学生にとっては通常の学生生活では得られない貴重な経験を積むことができたと考えています。このように形には残ることのできない資産があるというにご理解をいただき、支援分担金の使用用途が拡大されることをお願いしたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者 木村 昭博（工学研究科1年）

構成員 高嶋 明人（工学研究科2年）

金本 嶺泰（工学研究科2年）

宅島 裕太（工学研究科2年）

岩田 祐一（工学研究科1年）

古南 圭一（工学研究科2年）

菘谷 新吾（工学研究科2年）

高取 正依（工学研究科2年）

高井 惇（工学研究科1年）